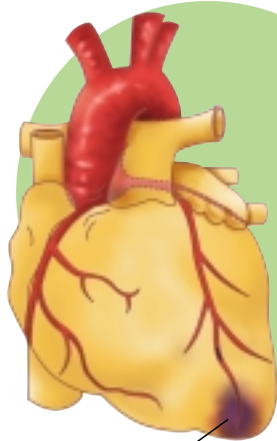


## 治療の ゴールデンタイムは

# 6時間

急性心筋梗塞は、心臓に栄養と酸素を供給している冠動脈が急に詰まり、血流（心臓のダメージを少なくするための先）に流れないことから、心臓の一部の筋肉が死んでしまう（壊死）病気で、急死することもあります。症状としては30分以上続く胸痛です。同じ胸痛でも狭心症の場合は五〜十五分くらいで、胸痛の持続時間間が急性心筋梗塞の重要な目安になります。

心臓の筋肉には再生能力がないため、急性心筋梗塞の第一の治療は、詰まった冠動脈を再び開通させて（再灌流療法）壊死を最小限にとどめることにあります。再開通は早ければ早いほどよく、急性心筋梗塞の治療のゴールデンタイム（心臓のダメージを少なくすることができる時間）は六時間といわれています。それを過ぎても十二時間以内であれば、再開通することで効果があります。W H O の調査では、急性心筋梗塞による死亡例は80%が二十四時間以内で、その三分の二は病院到着前です。ちなみに専門施設のある病院到着後の死亡率は五〜10%です。



壊死部分

治療法には、詰まった血栓を血栓溶解薬（t P A など）で溶かす方法と、血管内に細い管（カテーテル）を入れて、詰まった部位を風船（バルーン）でふくらませる「風船療法」（P T C A など）と呼ばれていますが、使用には十分配慮する必要があります。風船療法は再開通成功率は約九十五%と高いのですが、心臓カテーテル室を持った施設でなければ行うことができません。

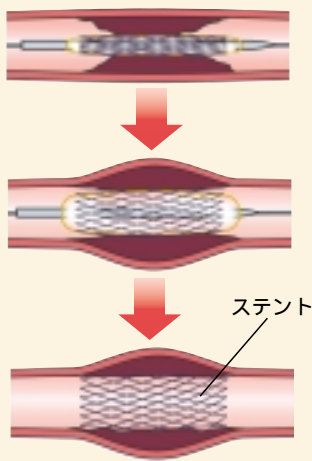


次に今行われている最新の治療法を紹介しましょう。

### 最新の治療法

## 血栓溶解薬 + 風船療法 + ステンント

### ステントの留置



ステント

急性心筋梗塞で循環器専門医のいる病院に搬送されてきた患者さんは、到着すると直ちに血栓溶解薬を静脈注射して、心臓カテーテル室に送られ、溶けているかどうかを確認するため血管造影を行います。閉塞部位がみつかる、そこを風船療法で再開通した後、その部位にステントというステンレススチールの金網の筒のような補強具を留置します。風船療法だけでは再狭窄することが多いため、今広く行われるようになった方法です。ステントは風船療法の際、60〜70%で使用されています。狭窄率は低下し、治療成績は向上しています。

抗血小板薬を約一カ月服用します。こうした治療が行われるようになって、再狭窄率は低下し、治療成績は向上しています。

## 再狭窄予防研究の 最前線

再狭窄を防ぐ



ステントを使用しても、なお20〜30%の再狭窄があるといわれています。そこで研究の最前線では、さまざまな試みが行われています。ステントに薬剤を付着させたり、血管内から放射線を照射して再狭窄を防ぐ研究、また、ステントを生体に吸収される物質でつくり、体内にステントを残さない研究も行われています。

### 日本心臓財団より

日本心臓財団は、わが国3天原因のうちの心臓病と脳卒中の予防を目指して、一九七一年に発足いたしました。当財団は、研究に対する助成や予防啓発、また世界心臓連合加盟団体としての諸活動を通して、心臓血管病の予防、制圧に努めております。当財団は皆様のご寄付により運営されています。どうぞ皆様の協力をお願い申し上げます。

財団法人日本心臓財団  
〒113-8511 東京都千代田区丸の内三丁目一 新国際ビル  
電話 03-3311-1181  
ホームページ・アドレス <http://www.jhf.or.jp/>